

日本の虎

トラは日本でも古くから知られる動物だ。日本最古の和歌集「万葉集」にも伝え聞くトラを詠んだ歌がいくつかある。また日本書紀には、トラが登場する最古の記録として 546 年（欽名 6 年）に妻子を伴って百済へ使した膳臣巴提便（かしわでのおみはてび）が我が子を奪ったトラを殺し、皮をはいで持ち帰ったと記されている。

ところで、トラは動物園などを除けば現在も日本には生息しない。日本の動物園でトラを見られるようになったのは、1887 年（明治 20 年）のことで、イタリアのサーカスが連れてきたトラが出産した子どもを、上野動物園がヒグマと交換してからだとされている。

魏志倭人伝には「其地無牛馬虎豹羊鵲」と記され邪馬台国の時代（3 世紀ごろ）にも生息していないことが伺えるが、およそ 2 万年前、日本が大陸と地続きのころトラは日本にいたらしい。

縄文時代よりさらに時代をさかのぼった洪積世後期の地層（静岡県の石灰採石場）から人骨片と一緒にトラの化石が発見された。人骨片には肉食動物にかまれたあとがあり、トラに食われたと推定される。日本が大陸から切り離され絶滅したのだろう。その後、日本に生きたトラが登場するのは 890 年（寛平 6 年）。宇田天皇が絵師の巨勢金岡（こせのかなおか）に命じて描かせたところ、貴族階級でトラの絵が流行したとされるが、定かではない。

江戸時代に入ると見世物としてトラが舟で運ばれてくるようになった。トラの見せ物は好評だったが、1861 年（文久元年）になると危険を理由に奉行所から猛獣見世物禁止の触れが発せられた。

宋の蘇東坡は、川辺で遊ぶ子どもらを捕らんとやってきたトラが、自分を見て無邪気に喜ぶ子どもらを恐れ山へ逃げ帰るのを目撃したというが、江戸庶民はそこまで無邪気ではなかったようだ。

jichirou fukuoka より転載